

1.12 団結旗開きを成功させよう!



80.1.11
No. 322

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電二二五八九・公衆電話三三二七二〇七)

不当処分撤回と二波へ総決起せよ! 反合・運転保安闘争に総決起しよう!

1・12 団結旗開きを明日にひかえ、準備もいよいよ迫り込みに入り、各支部の動員体制も着々と進められている。また、多くの支援団体・個人や労働組合からも参加の意志表示がつぎつぎとよせられている。80年代の起点としての団結旗開きを圧倒的に成功させ、国鉄35万人体制粉碎にむけて、第2波反処分闘争及び第2次反合・運転保安闘争に全組合員の総決起をかちとろう。

内外の大きな注目の中で開催される団結旗開き!

昨年、団結旗開きが「本部」反動集団からの動労千葉排除組織破壊策動の強まる中で、内外の大きな注目と支援の盛り上がりの中で圧倒的に開催されたのであったが、今年の団結旗開きは、全く違った意味で内外の大きな注目の中で開催されようとしている。

第一の点は、一四〇〇組合員の動労千葉が圧倒的な物量と金と動員力をもつ動労「本部」反動集団による一年余にわたる組織破壊攻撃と真向から闘い抜き、それに完全に勝利し、意気軒昂として闘い抜いていること。

第二の点は、単に少数の動労千葉が圧倒的と思われた動労「本部」反動集団に勝利したという点のみにとどまらず、「本部」の「一線を画す」方針や「貨物安定宣言」を敢然とはねのけて三里塚反対同盟との労働連帯を一層強化し、三里塚・ジェット闘争を貫徹し、国鉄35万人体制攻撃と真向から対決する方針を打ち出していること。

第三の点は、支配階級・資本の危機にかられた激しい攻撃の前に日本労働運動総体が急速度で産業報国化、右翼化を深め、「闘わない労働運動」へと変質をとげている現状の中で、われわれ動労千葉がこの一年間、労働組合の原点にかえり原則的な労働運動を着実に前進させてきたこと。

そして、第四に、こうしたわが動労千葉が激動の80年代にむかうその団結旗開きにおいて、いかなる方針と方向性を打ち出すのか、内外から大きな注目を集めているのである。

旗開きを起点に第2波反処分・第2次反合・運転保安闘争に総決起しよう!

昨年末の中野書記長への不当解雇をはじめとする動労千葉への大量不当処分は、激動の80年代を先きどりするかのような象徴的な攻撃であった。すなわち、国鉄35万人体制を強行せんとする国鉄当局は、この間、国労・動労中央を労使協調路線にとりこみ、国鉄再建にむけたこの大々的な合

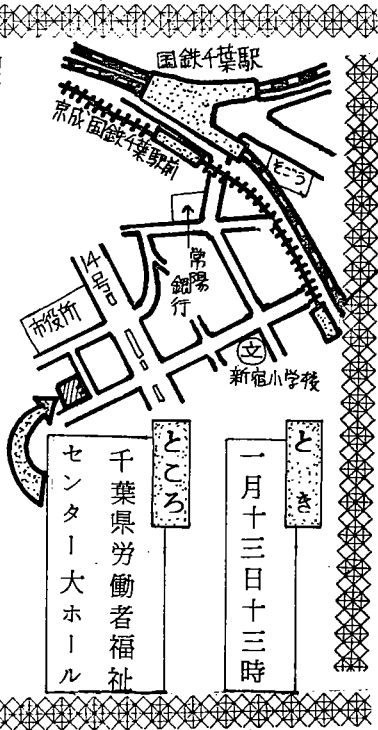
理化について了解と協力をとりつけることに一定の成功をおさめてきた。

しかし、動労千葉の存在と闘いは、国鉄当局にとって、まさに「あってはならないもの」として、なりふりかまわず、処分凍結を解除して昨年末の不当処分攻撃がかけられてきたのであった。

さらに、この不当処分に追い打ちをかけるかのごとく、12月29日、「暴力行為の絶滅について」なる局報号外を発行し、反動分子の暴力的職場破壊を逆に容認し、彼ら反動分子と一体となった動労千葉破壊と職場慣行破壊攻撃を行なってきた。

この国鉄当局のわが動労千葉に対する攻撃が昨年の「闘争第1号」ですべてに明らかのように、動労「本部」反動分子の強力な要請と一致した利害関係のもとで行なわれたことに対し、われわれは、満腔の怒りを込めて弾劾し、新たな決意をもって、団結旗開きを起点とする第2波反処分闘争に総決起しよう。

そして、同時に、国鉄35万人体制粉碎にむけた具体的な闘いの一環として第2次反合・運転保安闘争へ全組合員の総決起をかちとろうではないか。



第1部 講演
共同通信 論説委員 師岡武男氏

第2部 プログラム
基調報告 本部書記長 中野洋氏
連帯のあいさつ 県労連・社会党
・三里塚反対同盟・部落解放同盟 他
・アトラクション・新谷のり子・成田支部
民謡クラブ・カラオケ大会